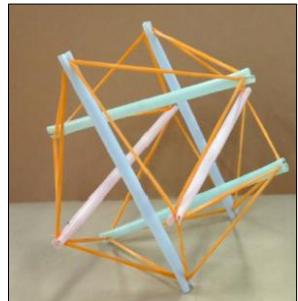


●ヤマトサンショウウオの調査報告書作成の資料第一段階完成

7月7日（土）に昆虫観察会が行われ、その日の午後から振り返りが行われ、目標にしてきたオオムラサキの成体に出会える事が出来なかつたと報告されました。そしてヤマトサンショウウオの調査観察に話が移り盛り上りました。何よりもこれまで大きな課題にしてきた新しい生育池が発見（里山の会が長年探し求めてきたもの）されたからです。調査観察活動を続けてきましたがアクシデントが繰り返されて、不安な中で活動を続けてきましたので、生育池が新しく見つかったことは得も言わぬ嬉しさです。出席者からこれまでの活動記録をまとめておく事が必要だと強調され、9月28日の「第2回京都生きものフェスタ」で発表してはどうかとなりました。桜谷先生からは非常に有意義だと発言があり、数日後にそのための目次案を送付いただきました。それに基づいて太田理事は過去の週刊ニュース記録（1040日分）からサンショウウオの項目を引き出せるようにしてみんなにヤル気を引き出しました。続いて金田さんは慣れていないパソコンで頭に残っている記憶と会誌56号までを読み破して懸命に調査記録を作り上げてきました。このように皆さんは日頃の活動を展開しながら報告書をまとめ上げようと努力を繰り広げられています。今、出来上がっている資料は池周囲の状況とカスミサンショウウオに関する活動日誌（2007年から）などが出そろいました。次は日々の写真を揃えることです。7月27日には桜谷先生が来所されますので、それまでに資料を出来るだけ用意したいと思っています。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

●竹棒の製作 7月20日、22日 熱い中奮闘 200本程度完成 残400本

京都生物多様性センターから竹サインペンを製作しているなら、竹棒を製作してくれないかと注文がありました。同じ竹を使ってのことなので不可能ではないだろうと受諾の返答をしました。この作業で一番苦労するのは竹を同じ寸法に切り割り揃える作業です。言葉では簡単ですが、手動のノコギリでの長さ揃えは難しく、かといって電動の丸鋸では扱いが難しく負傷の危惧も考えられるので大変です。そして寸法規格に合わせての竹割作業はまさに手作業なので苦労です。作業場に予定していたところは冷房装置が昨日まで働いていましたが、室外機が動かなくなってしまいました。23日は猛暑日で昼間は37度を超える暑さでした。その中で午後から竹割や研磨作業、そして竹の寸法書きなど木下さんを筆頭に森島さんや播川さんが暑い所で作業を進めていただきました。完成品は140本、途中仕上げは200本まで進められました。明日（24日）には300本の竹割の計画です。そして26日には木下さんが、最後の追い込みで仕上げてしまいましょうとすごくヤル気に燃えておられます。出来ましたら多くの方々の応援協力をお願いします。この日は27日の15:00から実行します夜の生き物観察会（20数人の参加が確定）の前日準備の予定ですので、それまでにやり切りたいと思います。宜しくお願いいたします。業者さんがきてクーラーを新設していただくことになりましたので、作業場の環境は良くなると思います。期待をしています。



●木津川希少植物除草作業

土用を過ぎると植物は秋の実りのための準備に移ってゆきます。これまでには根を張り、葉を大きくしたりと栄養分を吸収して種々のこしらえに懸命でした。夏の暑さを超えるといよいよ稔りの秋で子孫として受け継いでくれる種つくりに移動してゆきます。枝も茎も重さに耐えられるように固く

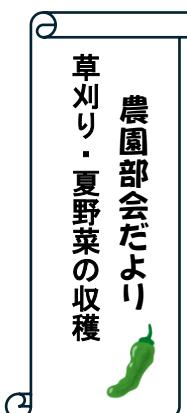


丈夫になってゆきます。春の除草作業は若くて柔らいのですが土用を過ぎてくると茎は太く大きくなつて作業が困難になつて春と比べると時間が懸るようになつて、機械の能率が弱くなつてきます。また冬近くになると雨の心配もあって除草作業は思うように取り組めなくなります。屋外作業は気候相手でもあって簡単にさせてもらえないものです。懸命に除草作業を展開していただきましたが、加茂町一帯の管理地の除草が残つているので、もうひと頑張りが必要です。中心になつてここまでこぎつけていただきまして大変ありがとうございました。

この夏は昨年以上に猛暑との予想がされていて、高齢者の私たちにとって非常に厳しいものです。熱中症予防にさらに注意を払つて夏を乗り切りましょう。

●大阪「寝屋川自然を守る会」草刈り業務依頼 7月20日

点野は寝屋川の自然を守る会が発足当時から活動拠点として人力で環境つくりや施設作りに力を尽くしてこられたところで、多くの河川レンジャーを育成されてきました。そして国交省淀川事務所に対して淀川整備の必要を要望されてきました。その努力が実を結び整備が完成し、いよいよ自分達で除草作業などを実施することになつて、高齢化が進み肩掛け式では追いつかなくなつて、今回里山の会が使つている自走式除草機を知つて応援を求めてこられました。幸い20日の土曜日の午後は機械も人も都合良く、依頼に応えることが可能になり、午後から寝屋川に回つてもらいました。寝屋川の水辺クラブから丁寧なお礼の電話がありました。



7月20日(土)9時30分から里山農園にて

作業日の翌日21日に梅雨明けが発表されました。これから更に暑い日がやつてきます。夕立や雷なども発生する時期ですので、くれぐれも体調管理と事故・怪我にはご注意ください。

森島副理事長による作業予定と注意事項にはじまり6名で作業を行いました。先週に引き続き、手分けして草刈りを実施しました。草が伸びるのは早い！負けそうですが、皆さんそれぞれ一生懸命に作業してくれました。本当に有難うございました。また、ピーマン・万願寺・オクラも収穫することができ、参加してくれた会員さんにご購入いただきました。こちらも有難うございました。かぼちゃも先週よりも実が太つてきています。オクラやカボチャの花が咲いていて、目を楽しませてくれています。小学校・中学校も終業式が終わり夏休みに突入したようです。お時間があれば里山農園に来ていただき、美しい風景保全のために一緒に汗をかきましょう。



草取と収穫作業



ハンマーモアでの草刈り



カボチャ



オクラの花

●宇治川・木津川・桂川が合流する三川の地点にあるさくら出会い館にて、7月21日に「八幡の背割堤とグリーンインフラ「水辺の生き物探検隊」」というイベントが開催され、研究室の学生と運営側の立場で参加・協力しました。(文：大阪工業大学 小川 芳也先生)

■1:川の外から見た印象と実際の違い

御幸橋の上から川の流れを観察した際は、昨年に比べると水量（流量）が多いな～。という印象でしたが、砂州まで移動しようと川に入ってみると深いところで腰ぐらいまであり、流れの速さ

も大きくて移動しにくい状況でした。参加した小学生たちは一步一歩確認しながらゆっくりと移動していました。

■2:流木や橋脚の付近は急に深くなる、流れも速くなる

近くにあった流木や橋脚のあたりは急に深くなっていて、約170cmある私の身長以上の深さになっていました。流れの速さもとても大きくて安全の啓発のために近づきたかったのですが、近づくことができませんでした。

■3:実際に流されたりすると焦ってしまう

このイベントは、生き物調査や川遊びをするときは注意しましょう！ということを事前に告知しています。また、ライフジャケットの装着や川に入るときの注意点に関する講習を実施した後に川に入っているので、参加者は意識を持っています。安全管理をする立命館高校の生徒さんや大阪工業大学の学生さん、大人など多数の人がいましたので、参加した小学生は安心してライフジャケットの機能を体験してくれていました。ただ、川に流されてしまうようなことが本当に起こってしまうと、不安になってしまい適切な行動ができなくなる恐れが非常に高くなります。今日の体験を是非とも活かしてください。ここで、改めて皆さんにお願いです！！

- ・見た目以上に、川の流れは速い！そして深い！
 - ・生き物がたくさんいるような流木などの付近は、急に深くなる！流れは更に速い！
 - ・ライフジャケットは必ず身につける！少しきついと感じるくらいに密着させる！
 - ・子供たちだけでは川に行かせない！必ず、大人が付き添ってください！
- 事故が起らぬことが一番の幸せです。気を付けながら川の楽しさを思う存分経験して下さい。



ライフジャケットを使用した川流れ体験



小川先生による橋脚付近の危険に関する説明

●同志社大学・学生支援機構の高橋あゆみさんが下見にこられた。 7月23日(火)

9月24日(当日参加者10名程度を予定)に京田辺市にある同志社大学の学生たちが地元の団体へのボランティア活動を計画されており、里山農園に来られました。里山の会としては田圃の溝堀り整備作業、白土山洞窟への周遊通路の樹木名看板の取り付け作業や、里山農園の通路や畦の草刈り作業をお願いしようとそれぞれの現場を案内しました。この日は10時には34度、11時には35度となり、屋外での作業は控えるべき猛暑日になりました。案内役の金田さんや森島さんは汗びっしょりで、同志社大学の高橋さんも懸命について回られました。本当にご苦労様でした。